痛風・高尿酸血症の腎機能 — 臨床的検討 —

田中 郁子¹⁾ 加藤 隆司²⁾ 甲斐 基一³⁾
小川 邦和³⁾ 玉置 繁憲¹⁾

目 的

痛風・高尿酸血症患者の腎機能を検討し、尿酸降下療法の腎機能に対する影響を検討した。「対象」名古屋膠原病リウマチ痛風クリニックを受診した男性痛風・高尿酸血症患者577名、平均年齢45歳±11歳を対象として検討した。また尿酸降下薬フェブキソスタットを6ヶ月以上内服した117名に関して腎機能に対する影響を検討した。

結 果

全患者のeGFRは 78.2 ± 15.3 で年代別では30歳未満が 94.8 ± 14.0 、30歳台が 86.0 ± 13.3 、40歳台が 77.6 ± 12.7 、50歳台が 71.8 ± 12.5 、60歳以上が 65.4 ± 17.2 と低下が認められ ($p < 0.0001$)、1歳毎に0.69の低下が認められた ($r = 0.50$, $p < 0.0001$)。当院の痛風・高尿酸血症以外の男性患者の検討では1歳毎の低下は0.43/年であった。検討をおこなった患者の平均BMIが25.4で肥満者が多いため体表面積を用いてeGFRを補正した (補正

eGFR)。全患者の補正eGFRは 84.7 ± 18.1 で年代別では30歳未満が 105.6 ± 18.6 、30歳台が 93.8 ± 15.4 、40歳台が 85.2 ± 15.5 、50歳台が 76.5 ± 13.9 、60歳以上が 66.3 ± 15.8 と低下し ($p < 0.0001$)、1歳毎に0.93の低下が認められた ($r = 0.50$, $p < 0.0001$)。フェブキソスタット投与開始後eGFRは 75.9 ± 17.0 から 78.5 ± 16.9 と改善し ($p < 0.005$)、投与開始前eGFRが70以下の症例でも 58.5 ± 8.1 から 62.7 ± 9.7 へと改善が認められた ($p < 0.0001$)。

考 察

健診などで得られた成人男子のeGFRの加齢に伴う低下は0.36/年程度と報告されており、当院での痛風・高尿酸血症以外の患者での変化からみても、痛風・高尿酸血症患者では腎機能低下がより早く進行すると考えられた。この痛風・高尿酸血症患者で認められる腎機能低下は尿酸降下療法により改善する可能性示唆された。

1) 医療法人IRO名古屋膠原病リウマチ痛風クリニック
2) 国立長寿医療研究センター放射線診療部
3) 医療法人IRO三重膠原病リウマチ痛風クリニック

Ikuko Tanaka, Shigenori Tamaoki
Takashi Kato
Motokazu Kai, Kunikazu Ogawa